病害虫発生予察情報　11 月予報　概要版（令和８年 11 月９日発表）

群馬県農業技術センター発生予察係（病害虫防除所）

★気象の１か月予報（令和８年 11 月５日　気象庁発表）

・平均気温は高い確率５０%、降水量は多い確率４０%、日照時間は少ない確率４０%です。

★11 月の病害虫予報　注目ポイント！！



キュウリ　褐斑病　　・・・発生量：やや多い

現在までの発生量は、平年よりやや多いです。
過繁茂を避け、ハウス内の換気をこまめに行うなど、施設内の適切な温湿度管理を行いましょう。



キュウリ　べと病　　・・・発生量：並

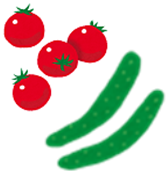
現在までの発生量は、一部地域で多いです。
ハウス内の喚起をこまめに行うなど、施設内の適切な温湿度管理を行いましょう。

野菜類・花き類　ハスモンヨトウ　・・・発生量：並



フェロモントラップへの誘殺数は、４地点中１地点でやや多くなっています。
例年より遅い時期まで飛来する可能性があるので注意しましょう。
施設では、開口部を防虫ネットで被覆して、施設内への侵入を防ぎましょう。

トマト・キュウリ　コナジラミ類　・・・発生量：並



トマト黄化葉巻病やキュウリ退緑黄化病のウイルスを伝搬します。
抑制キュウリの栽培終了後は、次作への持ち越しを防ぐため、施設内の蒸し込みを徹底しましょう。

【コラム】－抑制キュウリ栽培終了後の蒸し込み方法－

現在の栽培で発生しているコナジラミ類・アザミウマ類を次作に
持ち越さないために栽培終了後の蒸し込みを行いましょう!!!

《方法》

・栽培作物の地際部の切断、適用薬剤による処理などで全ての株を枯死させます。
・その後、施設を密閉し蒸し込み処理を行います。
　気温が低い１１月～１２月頃は、1カ月程度、施設を密閉しましょう。

《注意》

施設内に雑草が残っていると効果が劣るため、処理前に除草を行います。

その他の病害虫は裏面→

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	発生量	特　記　事　項
野菜類・花き類	アブラムシ類	並	各種トラップへの誘殺数は平年並。
キュウリ	うどんこ病	並	多発してからの薬剤防除では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	アザミウマ類	並	現在までの発生量は一部地域でやや多いが平年並。抑制キュウリの栽培終了後は、施設を密閉し蒸し込み処理を行い餓死させる。
イチゴ	うどんこ病	並	多発してからの薬剤防除では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	ハダニ類	並	発生量が多くなると防除が困難になる。天敵導入前の防除を徹底し、天敵導入後には影響のない薬剤を選択する。
ネギ	さび病	並	現在までの発生量は平年並。
	ネギアザミウマ	並	現在までの発生量は平年並。
	シロイチモジヨトウ	並	現在までの発生量は一部地域でやや多いが平年並。

詳しい予報はこちらから（病害虫発生予察情報一覧へリンク）
→ https://www.pref.gunma.jp/page/20720.html

こちらの二次元コードも
ご利用ください



★農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項等を確認して適正に使用してください。
★農薬散布後は器具をよく洗浄し、前に散布した農薬が混入しないよう注意しましょう。